

鍵山黒川線行宮神社から終点までの開設は昭和二二年現在の日吉村森林組合設立後同組合が実施主体となって開設されたものである。

以上のほか、村の事業として開設された農道は上鍵山の巻からの長谷線、父野川下本村の城下線などがあり、これらの道路は林道または農道という名目で開設されたが同時に村内交通の主要路線でもある。

なお、このほかにいくつかの線がもっぱら森林資源開発を目的として開設され、あるいは現に開設中のものもあるが村内の交通上の車道としては以上のとおりである。しかし、第二次大戦後五〇キロに及ぶこれらの道路は、その大部分を日吉村森林組合が管理したが、なにぶんにも戦後の木材ブームで奥地から切り出される大量の木材搬出のため路面は最悪の状態となり、節安地域から下鍵山までのトラックの所要時間は二時間以上三時間近くという始末で、しかもその積載量は三分の二程度というありさまで、年数回地元の人たちの奉仕で補修する程度では、とうてい追いつかないところまでできてしまった。そこで昭和二七年森林組合では多大の犠牲を覚悟で利用料の徴収とともに常備工夫四名を配して補修に当たらせられた結果、路面は著しく回復し

た。その後昭和三五年に村の管理に移され一層整備されて今日にいたっている。

さらに、大正四年すでに当時の先輩たちが意図していた高知県への連絡についても小谷線蛭谷から十和村地吉へ、藤川線の終点から十和村大道への二線が両村当局者によって検討され、平成四年度には完成の見とおしとなっている。なお、国道並びに十和村との連絡道については、記録の一部を掲載する。

#### 国道関係

第三代村長清家紫朗氏は、就任早々から村内の融和と、幹線道路の改良に意欲と情熱を燃やした。

当村にとって、大動脈ともいえる県道宇和島・須崎線を国道に昇格させたいと、宇和島市、広見町、橋原村、東津野村、葉山村、須崎市に呼びかけて、主要地方道昇格期成同盟会の結成に努め、その初会議を昭和三五年二月八日宇和島市天救園ホテルで開催し、期成同盟会を発足させた。

期成同盟会発足後もこの路線の中間に位置する日吉村と橋原村が中心となって行動しなければとの認識のもと、両村が連絡を密にして、機会あるたびに関係機関へ強力に陳情を続けた。

その甲斐あって昭和三九年一月主要地方道として指定をうけることとなり、更に昭和四四年一月一般国道一九七号(高知・大分)及び三二〇号(宿毛・日吉)としてそれぞれ昇格した。

国道に昇格後は、改良工事の早期着工に向かって運動を強力に継続した結果、昭和四七年四月国道一九七号高研地区工事の調査開始。同年八月、三期在任した清家村長が勇退して後任に奥島家隆氏が第二六代村長に就任したが、国道改良促進運動も当然引き継がれた。

昭和四九年四月地域住民の要望久しかった国道改良工事が建設省直轄代行区間として、県に代わって、ようやく着工されることとなった。

昭和五一年八月河野幸男氏が第二七代村長に就任。河野村長は、建設課長を一〇年余り経験している技術畑出身であったので、その豊富な識見と持ち前の積極性をもって建設省など関係機関との交渉にあたり、事業の進捗化に奔走した。

特に、当村の中心地である下鍵山地区の支障家屋の立ち退きについては、ルート内のトンネル工事の残土処理と併せて、下鍵山大内野々(日吉石油店から金沢商店のある一

帯)に用地を確保し、前記の残土をもって埋め立てて宅地造成を計画、トンネル関連の工事であるためその経費は主として建設省負担であって、村費としては用地買収費程度で完成し、これを立ち退き者に対し移転先用地としてそれぞれ要望に沿える条件で分譲することができた。

下鍵山地区の立ち退き交渉については、その補償額の程度も重要な部分ではあるが、各人が移転先を構えることについてずい分と懸念があったようであるが、村が分譲地を確保したこと、関係者の公共事業に対する理解のもと、この交渉が驚異的なスピードで決着し、建設省関係者から賞讃された。

これには、関係者から選出された国道調整委員会委員各位の公平にして誠意あふれる尽力に負うところが大きであった。

なお日向谷地区、上鍵山地区、並びに三二〇号の上大野地区の用地交渉についても、各地区の国道調整委員会による努力によって、順調に処理されたのである。

改良工事は、鹿島建設、住友建設、藤田組、鴻池組、奥村組等の大手企業が請負い、年次計画に沿って着々と進められた。

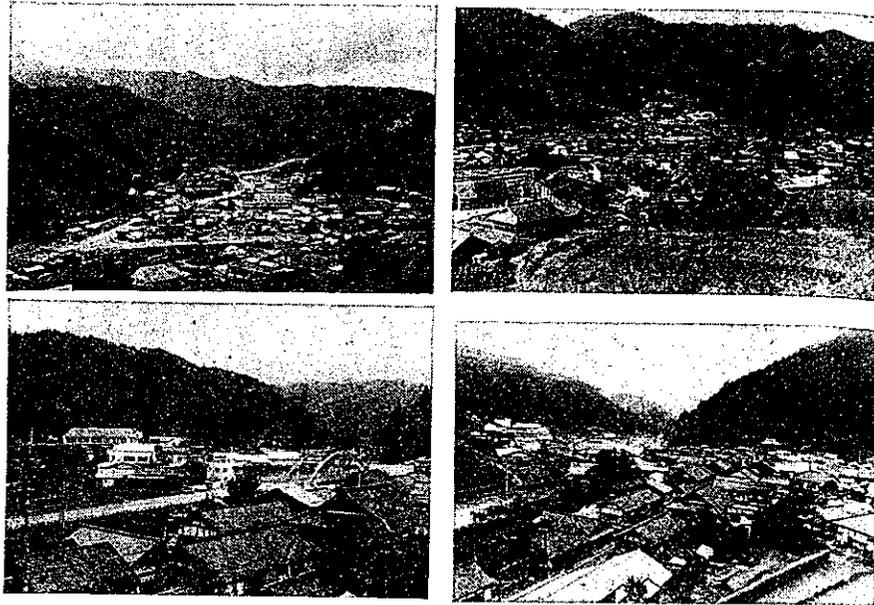
その主な進捗状況は、次のとおりである。

- 昭和五三年八月二日 高研トンネル貫通(一・五六二km)
- 昭和五五年四月一九日 下鍵山〜上鍵山間開通(一・二二km)
- 昭和五六年八月二日 下中合〜橋原町仲間まで開通(八・八三km)
- 昭和五七年二月八日 日吉大橋開通(九・九m×二二m)
- 昭和五八年一月二八日 高研地区全線開通(二六・八七km)

宇和島・須崎線主要地方道昇格期成同盟会の発足から、二〇年余りの歳月を経て、ここに完全二車線の見事な道路の完成を見ることとなったもので、この間における期成同盟会および三代にわたったの村長が、情熱を傾けた一端を完成祝賀会の挨拶などでしのびたい。

地域住民の要望久しかった国道一九七号高研地区の全線が完成。昭和五八年一月二八日関係町村で、その祝賀会が日吉村民センターで開催された。その折、関係町村を代表して、河野日吉村長が次のように挨拶を行っている。

『予土県境の難所の峠として、永年にわたり地域住民が、その改良を強く待ち望んでおりました国道一九七号高研地区(日吉・橋原間)一六・九kmの改築工事が、約一〇年の歳月と二一六億の巨費をもって完成され、本日ここに、建設大



国道関係の新旧比較写真

臣、高知県知事、愛媛県知事、両県の国会議員及び県会議員の諸先生をはじめ、本工事に直接御尽力賜りました四国地方建設局長ほか関係幹部の方々及び施工業者各位、並びに平素なにかと御指導をいただいております両県御当局及び近隣市町村長等の御来賓と、樽原町、日吉村の住民代表多数の御参会のもと、両町村主催の祝賀会がこのように盛大に開催できますことは、関係住民にとりましてこの上もない喜びであり、又、その感激も一人のものがあると存じます。

かえりみますと、先人が心血を注いで取り組まれた旧高研トンネルを中心とした日吉橋原線は、大正四年二月に着工し、一五年間を費やし、昭和三年五月に完成したもので、以来約半世紀にわたり、高知県津野山郷と愛媛県鬼北郷を結ぶ唯一の道路として大きな使命を果して参りました。

しかし、戦後における経済社会の進展に伴い、交通量の増大と、車輛の大型化等によって、本路線の改良が地域住民の熱望するところとなり、関係市町村が国道昇格期成同盟会を結成し、改良促進に向けて活動を始めてから二〇年余りの歳月が流れました。

その間、両県御当局の積極的な御指導のもと、国会議員の諸先生方の絶大な御尽力によりまして、私どもの予想をはるかにこえる早期の昭和四四年一二月国道に昇格、さらに昭和四九年四月から建設省直轄代行区間として高研地区の改築が

特に山村に伝わる秀れた伝統と産業を、新時代にどう調和させるかが肝要であろうかと存じます。

どうか今後とも格別なる御指導と温かい御支援を賜りますようおねがいを申しあげます。

終りになりましたが、なにかと御多用のなかを遠路御来臨を賜りました来賓各位に対しまして心から厚く御礼を申し上げますとともに、まことに粗末な準備で恐縮でございますが、ごゆっくり御歓談をいただきますようお願いを申しあげ祝宴に際しましての御挨拶と致します。』

#### 国道一九七号高研地区竣工式

##### 建設大臣告辞

本日ここに一般国道一九七号高研地区全線の開通式が挙行されるに当り、一言ごあいさつを申しあげます。

我が国においては、現在の内外の厳しい諸情勢に対処しつつ、充実した国民生活を確保するため、立ち遅れている社会資本の整備を図ることが重要な課題であります。なかでも道路は、国土の均衡ある発展と国民生活の向上の基盤となる施設であり、その整備を着実に推進していくことが必要不可欠であります。

このような観点から建設省におきましては、去る五月に、昭和五八年度を初年度とする第九次道路整備五か年計画を策

着手されたのであります。

時あたかも高度経済成長期から低経済成長期に移行し、財政的に極めてきびしい時期を迎えたにもかかわらず、着々と工事を進められ、この山間地帯に一六・九km、総工費二一六億円、実に一m当り一二八万円にのぼる道路の完成をみたのであります。

工事期間中における建設省関係各位の多大の御尽力と、施工に当たられた業者各位の数々の御労苦に対しまして、衷心から敬意を表し、感謝を申しあげます。

本日からの供用開始によりまして、日吉、樽原間は、約二〇分の区間となり県際交流は、一そう深まるものと思えます。

今後は、布施ヶ坂地区及び鹿野川地区の早期完成を切望して止みません。

やがて一九七号線完成の暁は、愛媛県南予レクリエーション地域と高知市を結ぶ最短コースとしてまた、目下計画されております四国縦断自動車道の大洲市と須崎市を接続する重要路線として、経済的、文化的発展に大きく寄与するものと確信をいたします。

今や国道の完成に伴い、開村以来の大転換の時を迎えております両町村は、将来に大きな夢と期待を寄せながら諸施策を推進しているところであります。

定し、これに基づき国土構造の骨格を形成する高速自動車道及び一般国道から日常生活の基盤となる市町村道に至る道路網の整備を計画的に推進していくこととしております。

さて、一般国道一九七号は、高知市を起点とし、四国西南山岳地帯を横断し、大洲市を経て大分市に至る、四国西南部地方と九州中部地方とを結ぶ唯一の幹線道路であります。

しかしながら、高知、愛媛県境に位置する高研地区の道路は、幅員が狭小なうえ、急勾配、急カーブの連続する劣悪な条件にあり、安全な交通を確保するうえで大きな障害となっており、しかも路面の凍結、地すべり、崩れ等により、たびたび交通途絶を余儀なくされている状況にありました。このため、かねてよりその整備が関係各方面から強く要望されていたところであります。

このような状況にかんがみ、建設省におきましては、昭和四七年度から本区間の調査を開始し、昭和四九年度から本格的な改良事業に着手し、以来鋭意その事業の進捗を図ってきたところでありますが、本日でたゞ全線開通の運びとなりましたことは、まことに御同慶の至りであります。

本路線の開通により、安全で円滑な交通が確保され、幹線道路としての機能のより一そうの向上が図られるとともに、地域の産業経済の発展と、地域住民の方々の交通便利の増進に寄与するところ極めて大なるものと確信するもので

あります。

終りに、本事業の完成に絶大なる御支援、御協力を賜りました地元関係各位並びに工事関係各位に対し、深く感謝の意を表しますとともに、今後とも道路整備の重要性について御理解をいただき、道路行政の推進により一そうの御支援を賜りますようお願い申しあげまして、私のあいさつといたします。

昭和五八年一月二八日

建設大臣 内海 英 男

#### 国道一九七号高研地区竣工式

##### 四国地方建設局長式辞

本日ここに一般国道一九七号高研地区全線の開通式を挙行するに当り、関係各位多数のご来臨を賜り盛大なる式典を挙げるのでございましたことは、私の喜びとするところであります。

道路整備は、国民生活の基盤となる社会資本の整備の中で最も重要な事業でありますので、厳しい経済環境の下ではあります。が計画的、体系的に整備を着実に進めていく必要があります。

特に地方においては、人口の減少傾向が続いており、所得の増大、雇用機会の拡大等を図り、人口の定着化を促進さ

せる必要が強く指摘されていますが、そのためには他にさきがけて幹線道路の整備が必要であります。

一般国道一九七号は、高知市を起点として四国西南山間を経、大洲市、三崎半島を通過し大分市に至る道路で、その実延長一八一kmの四国の重要な幹線道路でありまして、昭和四四年二月一般国道に昇格するとともに、本格的な道路整備が開始されました。

特に本日全線の開通式を迎えました高研地区は、愛媛、高知県境に位置し、一般国道一九七号で最大の難所といわれていたところであります。早急な改築が強く要望されていたものであります。

このため建設省におきましては、昭和四七年度に調査を開始し、昭和四九年度に工事に着手以来順調な進展をみて、約一〇年の歳月と総事業費約二一六億円をもって、ここにめでたく全線の開通式を迎えるに至ったものであります。

開通式を迎えるに当り、当事業のため先祖伝来の土地を提供されました用地関係者各位に厚くお礼申しあげますとともに、地元関係者各位並びに関係機関の方々のご協力と工事施工業界のご努力に対し深甚なる謝意を表します。

終りにのぞみ、当高研地区全線の開通により愛媛、高知両県の交流はもとより、文化、経済並びに地域産業の発展に大きく寄与することを心から念願しまして私の式辞といたします。

す。

昭和五八年一月二八日

建設省四国地方建設局長 中西 秩

#### 国道一九七号高研地区竣工式

##### 愛媛県知事祝辞

本日、待望の国道一九七号高研地区全線開通の日を迎え、まことに御同慶に堪えません。

国道一九七号は、高知市を起点とし、梶原町、日吉村を経由し、三崎半島から豊予海峡を渡り、大分市に至る四国西南地域の動脈であります。

しかしながら、この梶原、日吉間は、標高一、一〇〇mの高研山にさえぎられ、幅員の狭い急カーブが連続する交通の難所で、冬期は積雪、凍結によりまた、梅雨時には地すべり、崩壊のためしばしば通行不能になるなど、この路線における最大の隘路となっており、一日も早い改良が求められていたのであります。

幸い、地域の皆様方の御熱意と、国会議員諸先生の御支援が実を結び、昭和四七年建設省において調査が開始され以来一〇年余、湧水、落盤等困難な条件を克服され、近代技術の粋を結集し、一昨年の高研トンネルの完成に続いて、本日ここに、全長一七kmにわたる二車線道路が立派に完成したので

あります。

地元の皆様には、多年の念願が実現し、お喜びも一入のものがあるかと拝察いたします。

建設省をはじめ関係各位の御尽力、御協力に対し深く感謝の意を表する次第でございます。

考えてみますと本地区の開通は、高知、愛媛の両県にとりまして、大きな意義をもってあります。両県を隔てる厚い壁ともなっていた高研山を貫き、高知、愛媛をよりがちりと結びつけたこの新路線の開通は、今後ますます強まっていく両県の協力関係を、正に象徴するものであり、西南地域開発の推進、さらには、西瀬戸経済圏形成のために、計り知れない効果をもたらすものと期待しております。

愛媛県といたしましても、建設省の格別の御尽力をいただき、引き続き全線の整備促進に努力して参りたいと存じますので、皆様方には、今後とも温かい御支援、御協力の程よろしくお願い申しあげる次第でございます。

終りに臨み、本事業の推進に多大の御努力をいただきました皆様重ねて厚く御礼を申し上げますとともに、貴重な用地を提供してくださいました方々、そして立派な道路を完成していただいた工事関係者に対し深く感謝申し上げ、お祝いの言葉といたします。

昭和五八年一月二八日

愛媛県知事 白石 春樹

国道一九七号高研地区竣工式

高知県知事祝辞

本日ここに一般国道一九七号橋原町、日吉村間高研地区全線の開通式及び竣工式が挙行されるにあたりまして、一言御礼とお喜びを申しあげます。

この一般国道一九七号は、高知市を起点として須崎市、橋原町を経由し愛媛県日吉村、大洲市、佐田岬半島を経て、九州大分市に至る総延長二七〇・八kmの路線でありまして、高知、愛媛の両県を結ぶ経済文化交流の大動脈でございます。

このような四国西南部の主要幹線道路でございますが、今日まで幅員も狭隘で線形も悪く、その機能が十分生かされておらず、この高研地区全線一六・九kmの完成については、沿線住民の方々には勿論のこと両県民の念願懸望するところでございました。

本工事は、昭和四九年度から建設省ご当局のご努力で直轄事業として取りあげていただき、以来一〇年余りの歳月と二一六億余の多額の事業費を投じて、無事ここに後世にも自慢して残せる立派な道路の完成の運びとなりました。

このことは、本日ご列席いただいております建設省をはじめとす関係機関の皆様方、また国会議員並びに地元県議会

議員、町村議会議員の諸先生方の温いご尽力の賜物であることを深く感謝する次第でございます。

また、この事業のためにご協力を賜わり貴重な土地等の提供をいただきました地権者の皆様方に対しまして、心から厚くお礼申しあげます。

この高研地区全線の完成で、沿線の森林資源の開発、地場産業の育成、沿線地域の相互開発等、将来の発展に大きな役割を果たすものと思われまます。

さらに県施工の補助区間におきましても、関係諸先生方をはじめ、沿線改良促進期成同盟会、並びに地元住民の皆様方のひたかたならぬご尽力によりまして、改築工事も着々と進捗いたしております。この席をお借りいたしまして厚くお礼申しあげます。

何と申しましても道路は、豊かな地域社会の基礎づくりの根幹となるものであり、その整備促進はとりわけ後進性の強い島国四国にとりましては、極めて重要であります。

国の行政改革がらみで今般の道路予算は、まことに厳しい状況下にあります。地域格差を是正し豊かな郷土づくりに今後とも努力を払ってまいりますので、ご列席の皆様方におかれましてもなお一そうのご支援、ご協力をお願いがい申しあげます。

終りにりましたが、この工事に従事された関係各位のこ

尽力に深く感謝致しますとともに、本日の式典を推進して下さいました建設省及び橋原町、日吉村のご当局のご尽力に對しまして衷心よりお礼申しあげまして私のお喜びの言葉と致します。

昭和五八年一月二八日

高知県知事 中内 力

国道一九七号高研地区開通に関する新聞記事

(昭和五八年一月二十九日の愛媛新聞)

北宇和郡日吉村と高知県高岡郡橋原町を結ぶ国道一九七号の高研(たかとぎ)地区一六・九km改良工事の全線供用開始を祝う竣工式と祝賀会が、二八日両町村で開かれ、約三〇〇人が出席した。

橋原側で記念碑を除幕したあと、橋原、川口トンネル東口を地点に両町村二二チーム計一一〇人による記念駅伝の選手がスタート、新バイパスを日吉まで五区間一五・六kmの道なりに健脚を競った。

橋原側で神事のあと記念植樹とテープカット、日吉まで車で通り初めのパレードをした。

橋原側からの到着をうけて日吉村でも記念碑の除幕やモチまきが行われた。

午後からの日吉村住民センターでの竣工式と祝賀会には、建設省道路局の杉山好信国道第一課長、中西秩四国地方建設

局長、県、地元関係者らが出席、予土国境の難所、の改良全面開通を祝った。祝賀会のアトラクションでは、津野山神楽や日吉輪の会による踊りが披露された。

また記念式典では、両町村の小中学生による鼓笛隊パレードやブラスバンド演奏も行われた。

昭和五八年一月二八日、日吉村住民センターで挙行された国道一九七号高研地区竣工式において、四国地方建設局長から感謝状が施工業者に贈呈されたのは次のとおりである。

- 1 株式会社 生田組
- 2 池田電機株式会社
- 3 豚座建設株式会社
- 4 宇和島総合建設共同企業体
- 5 株式会社栄和電機
- 6 愛媛建設共同企業体
- 7 大林道路株式会社四国支店
- 8 株式会社奥村組四国支店
- 9 鹿島建設株式会社四国支店
- 10 鹿島道路株式会社四国支店
- 11 株式会社片山鉄工所

- 12 北宇和建設共同企業体
- 13 鬼北建設共同企業体
- 14 興和コンクリート株式会社大阪支店
- 15 株式会社鴻池組四国支店
- 16 佐藤道路株式会社大阪支店
- 17 三栄建設共同企業体
- 18 三共建設共同企業体
- 19 清水建設株式会社四国支店
- 20 住友重機械工業株式会社新居浜製造所
- 21 株式会社銭高組四国支店
- 22 相愛工業株式会社
- 23 株式会社田辺建設
- 24 東興建設株式会社四国支店
- 25 徳寿工業株式会社松山支店
- 26 日特建設株式会社四国支店
- 27 日本グラウト工業株式会社四国支店
- 28 日本国土開発株式会社四国支店
- 29 日本道路株式会社四国支店
- 30 日本ビーエスコンクリート株式会社大阪支店
- 31 幡多土建株式会社

- 32 フジタ工業株式会社四国支店
  - 33 富士塗装興業株式会社
  - 34 富士ビーエスコンクリート株式会社大阪支店
  - 35 保安工業株式会社四国支店
  - 36 前田道路株式会社高松営業所
  - 37 松下電工株式会社四国営業所
  - 38 明治塗工株式会社大阪支店
  - 39 橋原建設共同企業体
- 日吉と十和線関係
- 当村父野川地区は、全村面積の約五分の三を有し、農林産物の生産も高くとりわけ古来林業の盛んな地区であった。しかし、幹線道路である県道節安と下鍵山線並びに村道藤川線及び村道大飼線等いずれも袋路であるため、生産活動や日常生活に不便が多く、その解消に地域住民の関心は非常に高いものがあつた。
- 南側に隣接する高知県十和村との峰越し連絡道路の開設について、村議会でも度々協議されるところとなり、昭和三三年二月一三日十和村役場に於て、両村首脳者が初の会議を持ったのがこの開設運動のスタートである。
- その後更に二八年を経た昭和六一年度に日吉村はこの路